

令和4年度 学校経営計画

学校教育目標	<h2>自主挑戦</h2> <p>～大きな夢と高い目標をもって主体的に学び続け、果敢に挑戦する生徒の育成～</p>
--------	---

目指す学校像（ビジョン） 1 全ての教職員が一致協力し、生徒一人ひとりの未来を切り拓く力を引き出し、グローバル化する社会の中で活躍できる人材を育成する学校 2 教育活動のあらゆる場面で規範意識を高めるとともに、生徒の自己指導能力を育成する学校 3 生徒が誇りを持ち、活力に満ち溢れ、地域から信頼される学校	目指す生徒像（自主・自律・協働・挑戦する生徒） 1 習得した知識・技能を活用し、主体的に学び続ける生徒 2 感情をコントロールし、他者の立場で物事を考える生徒 3 地域や社会で多様な考えを理解し、他者と協働して課題を解決できる生徒 4 進路実現に向け、見通しをもって計画的に行動し、果敢に挑戦する生徒	求める教師像（自主・自律・協働・挑戦する組織） 1 倫理観を高め、使命感をもって行動する教師 2 主体的かつ協働して職務を遂行し、積極的に学校経営に参画する教師 3 ICTを活用した学習活動に取り組む教師 4 総合的探究を軸として教科横断的な教育活動に取り組む教師
--	---	---

領域	中期経営目標	短期経営目標	項目番号	令和4年度			推進担当		
				目標達成のための具体的方策	評価指標・評価基準				
					努力指標	成果指標			
未来を切り拓く力の養成	大きな夢と高い目標をもって、生徒が主体的に学び続け、学力を向上させる。	思考力・判断力・表現力を育む授業づくり、調査づくりを実践することにより生徒の知識を構造化し、変化し続ける社会において生きる力の基礎力を育成する。	1	○生徒の学習意欲を高め、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善に向けた研究・実践に積極的に取り組む。 ○生徒の「思考力・判断力・表現力等」を引き出すことにつながる設問を定期考査等で出題する。 ○生徒の「思考力・判断力・表現力等」の育成のために、グループワークの導入や、ICT機器の活用（活用教員が75%以上）などを実施し、よりよい授業実践を目指す。	4 3 2 1	「思考力・判断力・表現力等」を求める設問を定期考査毎に組み、普段の授業の中でそれらを育成するためにより良い授業づくりに取り組んだ教員が90%以上 「思考力・判断力・表現力等」を求める設問を定期考査毎に組み、普段の授業の中でそれらを育成するためにより良い授業づくりに取り組んだ教員が80%以上 「思考力・判断力・表現力等」を求める設問を定期考査毎に組み、普段の授業の中でそれらを育成するためにより良い授業づくりに取り組んだ教員が70%以上 「思考力・判断力・表現力等」を求める設問を定期考査毎に組み、普段の授業の中でそれらを育成するためにより良い授業づくりに取り組んだ教員が70%未満	4 3 2 1	「私は、授業を通して知識理解を深め、それらを活かして意欲的に日々の学習活動に励んでいると思う。」と自己評価している生徒の割合が90%以上 「私は、授業を通して知識理解を深め、それらを活かして意欲的に日々の学習活動に励んでいると思う。」と自己評価している生徒の割合が80%以上 「私は、授業を通して知識理解を深め、それらを活かして意欲的に日々の学習活動に励んでいると思う。」と自己評価している生徒の割合が70%以上 「私は、授業を通して知識理解を深め、それらを活かして意欲的に日々の学習活動に励んでいると思う。」と自己評価している生徒の割合が70%以上	教育研究
			2	○「総合的な探究の時間」との連携を視野に入れ、また様々な場面を意識した上で、教科の授業において教科横断的な取り組みを意識した実践を行う。 ○校内の研究授業態勢を充実させ、校外の研究授業・研究会等の視察成果の共有を図る。 ○校内における授業改善に向けた取り組み（研修会等）について研究し、実践する。	4 3 2 1	「総合的な探究の時間」との連携を含む、教科横断的な取り組みを行った教員が90%以上 「総合的な探究の時間」との連携を含む、教科横断的な取り組みを行った教員が80%以上 「総合的な探究の時間」との連携を含む、教科横断的な取り組みを行った教員が70%以上 「総合的な探究の時間」との連携を含む、教科横断的な取り組みを行った教員が70%未満	4 3 2 1	「学校での活動をとおして自己の課題が明確になり、その解決に向けて努力している」と自己評価している生徒の割合が90%以上 「学校での活動をとおして自己の課題が明確になり、その解決に向けて努力している」と自己評価している生徒の割合が80%以上 「学校での活動をとおして自己の課題が明確になり、その解決に向けて努力している」と自己評価している生徒の割合が70%以上 「学校での活動をとおして自己の課題が明確になり、その解決に向けて努力している」と自己評価している生徒の割合が70%未満	教育研究
			3	○低学年時から定期的に進路志望調査および個人面談を年3回以上実施し、「大きな夢と高い目標」を設定し、マイスケジュールを活用し計画的な学習に取り組ませる。 ○模擬試験では生徒個人の事前事後の学習を充実させるとともに、学校へのフィードバックを重視し指導のPDCAサイクルの取り組みを促進する。 ○進路研修会等を実施し、全教職員が系統的かつ組織的なキャリア教育・進路指導を行い、生徒の進路目標の実現を図る。	4 3 2 1	学びの基礎診断において、生徒が全国平均点以上を目標とするよう指導・声掛けを実施している教員が90%以上 学びの基礎診断において、生徒が全国平均点以上を目標とするよう指導・声掛けを実施している教員が70%以上 学びの基礎診断において、生徒が全国平均点以上を目標とするよう指導・声掛けを実施している教員が50%以上 学びの基礎診断において、生徒が全国平均点以上を目標とするよう指導・声掛けを実施している教員が50%未満	4 3 2 1	学びの基礎診断において、1、2年生の50%以上が学力到達ゾーン（GTZ）のA段階（偏差値58以上）以上にいる。 学びの基礎診断において、1、2年生の50%以上が学力到達ゾーン（GTZ）のB段階（偏差値46以上）以上にいる。 学びの基礎診断において、1、2年生の50%以上が学力到達ゾーン（GTZ）のC段階（偏差値39以上）以上にいる。 学びの基礎診断において、1、2年生の50%以上が学力到達ゾーン（GTZ）のC段階未満（偏差値39未満）にいる。	進路指導
			4	○観点別評価の実施方法の検討。 ○実施状況の確認。 ○観点別評価に関する校内研修の実施。 ○来年度の実施方法の検討。	4 3 2 1	「ルーブリックを作成し、パフォーマンス課題を評価した」教員が70%以上 「ルーブリックを作成し、パフォーマンス課題を評価した」教員が50%以上 「ルーブリックを作成し、パフォーマンス課題を評価した」教員が30%以上 「ルーブリックを作成し、パフォーマンス課題を評価した」教員が30%未満	4 3 2 1	「評価から自分の学力を把握・分析し、次の目標を設定した」生徒が90%以上 「評価から自分の学力を把握・分析し、次の目標を設定した」生徒が70%以上 「評価から自分の学力を把握・分析し、次の目標を設定した」生徒が50%以上 「評価から自分の学力を把握・分析し、次の目標を設定した」生徒が50%未満	教務
豊かな人間性の育成	〈体育コース〉 体育コースの教育活動の充実を図る。	自ら主体的に専門知識・技能の探求を深め、競技力向上に向けて積極的に取り組む生徒の育成に努める。	5	○年間4回の集中講義を開催し、大学や関係機関から「メンタル」「フィジカル」「メディカル」「栄養」各分野ごとの専門の講師を招き、専門的な知識や技能を習得させ、強化6種目の競技力の向上を図る。 ○研究発表へ向けた取り組みを充実させるために、広島大学と連携を図り、年3回のサポートを受け、研究への取り組み方、まとめ方、プレゼンテーションの方法を学びスキルアップを図る。	4 3 2 1	「生徒が主体的に専門知識や技能を習得できるように取り組んでいる。」と実感する教員が95%以上 「生徒が主体的に専門知識や技能を習得できるように取り組んでいる。」と実感する教員が90%以上 「生徒が主体的に専門知識や技能を習得できるように取り組んでいる。」と実感する教員が80%以上 「生徒が主体的に専門知識や技能を習得できるように取り組んでいる。」と実感する教員が80%未満	4 3 2 1	「主体的に専門知識・技能の探求を深め、競技力が向上した。」と実感する生徒が95%以上 「主体的に専門知識・技能の探求を深め、競技力が向上した。」と実感する生徒が90%以上 「主体的に専門知識・技能の探求を深め、競技力が向上した。」と実感する生徒が80%以上 「主体的に専門知識・技能の探求を深め、競技力が向上した。」と実感する生徒が80%未満	体育コース
			6	○生徒玄関前での登校指導（「朝読」と「遅刻防止・遅刻指導」）を全教員で取り組む。①朝読に学校全体が取り組めるよう、8時25分生徒玄関通過～入室完了させる指導 ②8時30分からの朝読に間に合わない生徒へ担任と連携をとり指導（遅刻指導）	4 3 2 1	教育実践の中で「朝読への取り組みに対する指導に努めている」教員が95%以上 教育実践の中で「朝読への取り組みに対する指導に努めている」教員が85%以上 教育実践の中で「朝読への取り組みに対する指導に努めている」教員が75%以上 教育実践の中で「朝読への取り組みに対する指導に努めている」教員が75%以下	4 3 2 1	遅刻指導を受ける生徒延べ数が年間1,000件未満 遅刻指導を受ける生徒延べ数が年間1,200件未満 遅刻指導を受ける生徒延べ数が年間1,300件未満 遅刻指導を受ける生徒延べ数が年間1,300件未満	生徒指導
			7	○生徒会活動を活性化させるために定例の理事会を毎週1回実施し、主体性、計画性をもって行事や委員会活動に取り組ませる。 ○部活動部長会を学期に一回以上開催し、各部に年度当初に年間活動目標を設定させ、目指す部活動像を意識させながら部活動に取り組ませる。	4 3 2 1	全ての委員会、部長会実施を年間4回以上 全ての委員会、部長会実施を年間3回以上 全ての委員会、部長会実施を年間2回以上 全ての委員会、部長会実施を年間2回未満	4 3 2 1	生徒会理事の各委員会の活性化、各部年間活動目標の達成度70%以上 生徒会理事の各委員会の活性化、各部年間活動目標の達成度60%以上 生徒会理事の各委員会の活性化、各部年間活動目標の達成度50%以上 生徒会理事の各委員会の活性化、各部年間活動目標の達成度50%未満	生徒会
			8	○年に3回以上大掃除を計画し、清掃重点ポイントの目標を設定する。 ○年に1回以上、清美委員による掃除道具点検を実施し、清掃後だけでなく清掃前の清潔感への意識の向上を図る。 ○年に一回、教室のワックス掛けを年間計画に組み込む。	4 3 2 1	清掃監督について、生徒と共に清掃活動に取り組み、清潔感を感じる教員が90%以上 清掃監督について、生徒と共に清掃活動に取り組み、清潔感を感じる教員が70%以上 清掃監督について、生徒と共に清掃活動に取り組み、清潔感を感じる教員が60%以上 清掃監督について、生徒と共に清掃活動に取り組み、清潔感を感じる教員が60%未満	4 3 2 1	清掃がしっかり出来て清潔感があると感じている生徒が90%以上 清掃がしっかり出来て清潔感があると感じている生徒が70%以上 清掃がしっかり出来て清潔感があると感じている生徒が60%以上 清掃がしっかり出来て清潔感があると感じている生徒が60%未満	保健厚生
豊かな人間性の育成	いじめを生まない風土づくりを進める。（支持的風土の醸成）	互いの良さを認め合い、意見の対立や理解の相違を解決できる生徒を育成する。	9	○学級・学年、教科、クラブ等の諸活動において観察を深め、情報共有に努める。発見された生徒の困りごとに際しては、教育相談委員会(年間5回)・いじめ防止委員会(随時)等を通じて迅速かつ組織的に対応する ○教員・保護者・生徒アンケート(年間各2回)を有効に活用するとともに、集計結果を「生徒の安心・安全な学校生活」の尺度とする。	4 3 2 1	アンケートの中に安心・安全な学校生活を送る上で問題となるような事例回答が見られない 問題となるような回答が合計10例以下で、関係教員による事後取り組みが行われている 問題となるような回答が合計20例以下で、関係教員による事後取り組みが行われている 問題となるような回答が合計21例以上で、関係教員による事後取り組みが行われている	4 3 2 1	「教員が常に安心感を与え、いじめを見逃さないと意識している」と感じる生徒が70%以上 「教員が常に安心感を与え、いじめを見逃さないと意識している」と感じる生徒が60%以上 「教員が常に安心感を与え、いじめを見逃さないと意識している」と感じる生徒が50%以上 「教員が常に安心感を与え、いじめを見逃さないと意識している」と感じる生徒が40%以上	生徒指導 教育相談

領域	中期経営目標	短期経営目標	項目番号	目標達成のための 具体的方策	評価指標・評価基準		推進担当		
					努力指標	成果指標			
					職場環境	働きやすい		業務改善を進めるとともに働き方の見直しを図り、全教職員の年間月平均の勤務時間外の在校時間を45時間以下にする。	10
地域交流・地域貢献	身近な地域や社会と連携を図り、本校教育活動への理解や関心を高めるとともに地域に信頼される魅力ある学校づくりを推進する。	地域と連携した活動を通して、地域社会に貢献できる人材を育成する。	11	地域行事等に参加したり、地域人材を活用した取組を実施したりする。	4 地域と連携した取組を年間4回以上実施 3 地域と連携した取組を年間3回以上実施 2 地域と連携した取組を年間2回以上実施 1 地域と連携した取組を年間1回以上実施	4 「地域における自分の役割を考えることにつながった」と回答した生徒の割合が80%以上 3 「地域における自分の役割を考えることにつながった」と回答した生徒の割合が70%以上 2 「地域における自分の役割を考えることにつながった」と回答した生徒の割合が60%以上 1 「地域における自分の役割を考えることにつながった」と回答した生徒の割合が60%未満	生徒会 総務企画 部活動		
		本校の教育活動を発信し、中学生の進学意欲を高め、保護者・地域からの信頼を深める。	12	月平均10回はホームページを更新し、日頃の教育活動を紹介するとともに、生徒・保護者・受検生等のニーズに対応したタイムリーな情報を定期的にホームページに掲載する。	4 ホームページの年間更新回数が130回以上 3 ホームページの年間更新回数が110回以上 2 ホームページの年間更新回数が90回以上 1 ホームページの年間更新回数が90回未満	4 ホームページは充実していると感じている保護者が80%以上 3 ホームページは充実していると感じている保護者が70%以上 2 ホームページは充実していると感じている保護者が60%以上 1 ホームページは充実していると感じている保護者が60%未満	総務企画		
		短期経営目標	項目番号	令和4年度					推進担当
		目標達成のための 具体的方策	具体的な計画						
		<体育コース> スポーツを通して、小・中・高連携を積極的に推進し、地域や社会に貢献するとともに、指導者としての資質を養う。	13	小・中・地域と積極的に連携を図り、交流を深める場を設定する。	○近隣小学校の水泳指導 ○安佐南区スポーツセンター主催による水泳指導（水泳教室） ○市民との合同チームによる駅伝大会の参加 ○中高合同バレーボール練習会の開催 ○中学生へのサッカー指導 ○小学生へ一般との剣道交流 ○小中学生との柔道交流			体育コース	
		スポーツ、文化・芸術、ボランティア活動等を通して、小・中・高連携を積極的に推進し、地域や社会に貢献する。	14	小・中・地域と積極的に連携を図り、交流を深める場を設定して、地域の文化活動をリードする存在としての活動を実践する。	○吹奏楽部による学校や地域での演奏活動・行事への参加 ○生徒会による公民館等での子供会活動への参加 ○演劇部による弁護士会との合同人権劇の上演・介護老人保健施設への訪問交流活動 ○「十六の会」「ふるさとまつり」での美術部、書道部による文化活動 ○近隣中学校出張授業 ○献血活動 ○地域見守り活動や清掃活動 ○小学生へのかけっこ指導			生徒会 総務企画 保健厚生 部活動	

<最重点目標（上記項目番号4、10、11）とした理由>
●昨年度の取り組みを今年度から実施される新学習指導要領の観点別学習評価（3観点）に生かし、適切な評価を行うとともに新学習指導要領の謳う新たな学力の伸長を図る。
●業務改善や働き方改革の意識を高め、在校等時間の縮減を図るとともに生徒と向き合う時間を確保する。
●身近な地域社会との交流機会を経て、多様な人々と協働しながら地域貢献する人材を育成する。